令和８年11月18日

参加者　殿

支出負担行為担当官
国土地理院長
河　瀬　和　重

見 積 依 頼 書

下記について請負に付したいので見積書を提出願います。

記

１．件　　名	水沢測地観測所のアスベスト分析調査業務
１．履行又は納入期限	令和９年３月12日（金）
１．履行又は納入場所	仕様書のとおり
１．見積書等提出場所 （郵送又は持参の場合）	茨城県つくば市北郷１番　国土地理院総務部契約課契約係 TEL：029-864-4362
１．見積書提出期限	令和８年12月３日（木）12時00分
１．見　積　方　法	契約の相手方の決定に当たっては、見積書に記載された金額をもって契約価格とするので、見積者は消費税及び地方消費税を含む金額を見積書に記載すること。
１．参　加　資　格	(1) 予決令第７０条及び第７１条の規定に該当しない者であること。 (2) 国土地理院長から指名停止を受けている期間中の者でないこと。 (3) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注の業務等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。 (4)仕様書第１１条に示す要件を満たすこと。
１．契 約 保 証 金	免除
１．図面（内訳書） 及び仕様書	別添のとおり
１．支 払 い 条 件	前払金　　無　　―%　　部分払　　―回 物品納入後又は履行完了後に発注者が正当な請求書を受理してから３０日以内に請負代金を支払うものとする。
１．そ　の　他	(1) 参加者は次の注意事項を熟読し承諾のうえ参加したものとみなす。 注意事項：https://www.gsi.go.jp/SERVICE/keiyaku/oc_caution.pdf (2) 仕様書第１１条に示す書類を見積書と同時に提出すること。

水沢測地観測所のアスベスト分析調査業務

仕　　様　　書

（第１条　適用範囲）

本仕様書は、国土地理院（以下「発注者」という。）が発注する水沢測地観測所のアスベスト分析調査業務（以下「本業務」という。）の業務の範囲と、発注者及び本業務の受注者（以下「受注者」という。）の責任の範囲を規定するものであり、本仕様書の記載内容をもってその適用範囲とする。

（第２条　用語の定義）

本仕様書において、指示・承諾及び協議とは、次の定義による。

（１）指示とは、発注者の指名した職員（以下「担当職員」という。）が受注者に対し所掌事務に関する方針、基準及び計画等について書面をもって示し、実施させることをいう。

（２）承諾とは、受注者が担当職員に対し書面で申し出た事項について、担当職員が書面によりその事項について同意することをいう。

（３）協議とは、書面により契約書又はこの仕様書で定義する協議事項について、発注者と受注者が対等の立場で合意することをいう。

（第３条　目的）

本業務は、建築物のアスベストの「使用の有無」について調査を実施することを目的とする。

（第４条　業務実施場所）

（１）本業務の実施場所は、別紙１に示すとおりである。

岩手県奥州市水沢黒石町内熊ヶ沢42－2 水沢測地観測所

（２）本業務の実施対象建築物は、別紙２に示す５施設である。

（第５条　業務内容）

本業務の内容は、以下のとおりとする。

実施場所の建築物及び工作物について、以下の（１）から（３）のアスベスト分析調査を実施する。なお、本調査は、建築物石綿含有建材調査者講習等登録規程に規定される建築物石綿含有建材調査者及び工作物石綿事前調査者が実施するものとし、特に、（３）試料採取及び分析調査は、厚生労働大臣が認める分析調査を実施するために必要な知識及び技能を有する者が実施すること。

（１）書面調査（一次スクリーニング）

別紙３から別紙１０及び必要に応じて貸与する資料を参考に、建築年度、構造、既存の設計図等により、アスベストの使用の有無について調査すること。

（２）現地調査（二次スクリーニング）

現地において、対象施設の建築物全体を目視によりアスベストを含有する建材等（含有する可能性がある建材等を含む）の使用の有無について調査すること。

（３）試料採取及び分析調査

（１）書面調査及び（２）現地調査において、アスベストの使用の有無について判定できない場合は、 建築物等の解体に伴い必要と思われる箇所の検体の試料採取及び分

析調査をすること。
　上記の検体のほかに、（１）書面調査及び（２）現地調査において、アスベストの使用の有無について判定できない建材等があった場合は、速やかに担当職員へ報告すること。その対応については担当職員と受注者が協議して決定することとする。

（第６条　打合せ）
業務を実施するうえで必要な場合は、適宜打合せをすること。オンラインによる打合せも可とする。打合せ実施後には、その都度受注者が打合せ記録簿（様式１）を作成し、担当職員の確認を得ること。なお、業務中に発生した業務に関する質疑及び報告等の連絡は、原則、電子メール等で実施し、重要な事項については打合せ記録簿により確認すること。

（第７条　提出書類）
本業務の提出書類は、以下のとおりとする。
（１）業務開始時（契約後７日以内、担当職員へ電子メールで提出）
・請負代金内訳書（様式２）
・業務計画書（様式３）
・北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時に備えた対応（様式は任意だが、別紙１２（記載例）準用可）
・資料貸与申請書（様式４）（必要な場合）
（２）業務の一部を再委託する場合（担当職員へ連絡後、7 日以内に電子メールで提出）
・再委託業務承認願（様式５）
・再委託承諾書（様式６）
・再委託業務計画書（様式３準用）
（３）業務終了後（履行期限までに電子データで提出）
・業務実施報告書（様式７、工程管理写真を含む）
・分析結果報告書
・再委託業務実施報告書（様式７準用、工程管理写真を含む）（再委託が有る場合）
・貸与資料返納書（様式８）（必要な場合）

分析結果報告書は以下の①～③を含めること。また、本報告書のほか、調査結果が明らかになった時点で第一報としてその結果を速やかに担当職員へ電子メール等で報告すること。
① 石綿障害予防規則 第３条第７項に基づく事前調査における石綿分析結果報告書
② 調査箇所が分かる図面及び写真
③ その他（アスベスト含有の有無を判断した根拠、分析調査の詳細等）

業務実施報告書及び分析結果報告書の電子データは、PDF ファイル一式のほか、報告書に使用した画像を全てjpeg 形式として提出する。
電子データは、以下(a)(b)のいずれかの方法で提出すること。また、いずれの提出方法においても最新のパターンファイル（ウイルス定義ファイル）に更新されたウイルス対策ソフトにより、ウイルスチェックを行うこと。
(a) CD-R又はDVD-R（1部）で提出する場合
　ウイルスチェックに関する情報として、①使用したウイルス対策ソフト名、②ウイルス定義ファイルの作成年月日又はバージョン番号等、③チェック年月日を提出する媒体のラベルに記載すること。又は、それらの情報を記載した書面を同梱すること。
　提出方法は郵送も可能とする。ただし、履行期限までに国土地理院に到着するよう発送日に注意すること。
(b) 電子メールで提出する場合

担当職員の指示に従い、大容量ファイル転送システムを用いて提出すること。

（第８条　提出場所）
提出書類の提出場所は、以下のとおりとする。
国土地理院 測地部 物理測地課（茨城県つくば市）

（第９条　履行期限）
履行期限は以下のとおりとし、期限までに第７条（３）に示すものを提出すること。
履行期限 令和９年３月１２日（金）

（第１０条　関係法令の遵守）
本業務の実施にあたっては、「労働安全衛生法」、「石綿障害予防規則」及び「大気汚染防止法」等の関係法令を遵守し、安全に十分注意して履行すること。法令等に違反した場合には同法令等に則り厳正に対処するものとする。

（第１１条　受注者に求める要件）
見積書を提出しようとする者は、アスベスト分析調査を実施する建築物石綿含有建材調査者講習等登録規程に規定される建築物石綿含有建材調査者及び工作物石綿事前調査者が各々在籍していることを証明する書類（修了証及び社員証の写し等）を、受注者に求める要件（仕様書 第１１条）記載書（別紙１１）とともに見積書提出期限までに見積書と併せて提出すること。

（第１２条　北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表時の対応）
業務実施場所は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域が含まれている。受注者は、本業務の実施条件、実施内容を踏まえ、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表時の対応について、別紙１２のとおり実施するものとする。

（第１３条　積雪や熊出没時の安全管理）
本業務実施場所は積雪がある地域であり、周囲の視界確保が困難な場合には作業を一時中断するなど、安全な状況での作業に努めること。また、現地調査実施中に本業務実施場所周辺にて熊出没情報があった場合には直ちに調査を中断し、安全確保を最優先すること。あらかじめ避難経路や連絡方法を決めておき、熊の出没があった際には安全確保のほか、地域の警察（岩手県奥州警察署　0197-25-0110）等へ連絡すること。

（第１４条　監督）
本業務においては、担当職員が随時監督を実施する。また、監督中に指摘された事項については、速やかに是正すること。なお、本業務に疑義が生じた場合は、速やかに担当職員に報告し、その指示を受けること。

（第１５条　その他）
（１）本業務に伴って生じる試料採取による建築物の復旧は不要とする。
（２）本仕様書に定める事項について、現状と差異が生じた場合には、現状を優先するものとし、担当職員と調整のうえ対応するものとする。
（３）本業務を実施するための必要な経費は、すべて本業務の請負代金に含まれる。
（４）本業務によって知りえた事柄や情報等すべてにおいて、本業務以外に使用しないこと。許可なく保管や持ち出し等をしないこと。また、本業務に関与しない第三者等に漏洩しないこと。
（５）本仕様書に疑義が生じたときは、総務部契約課契約係を経由して測地部物理測地課地

磁気係長宛に照会すること。

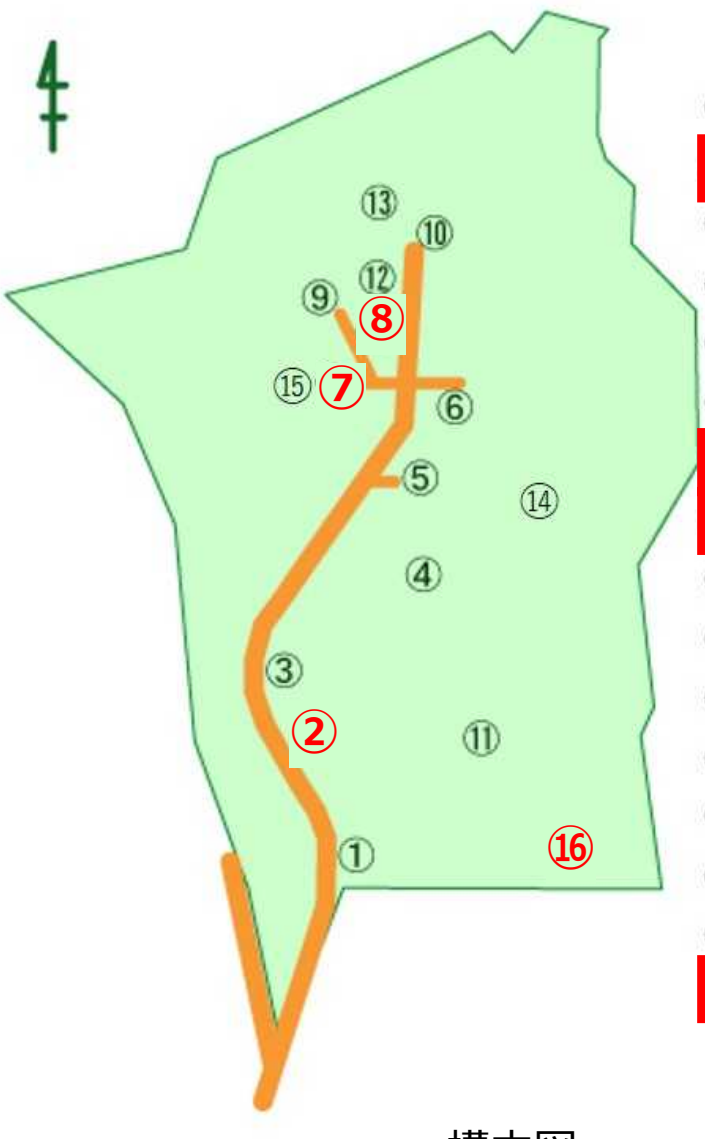
別紙１

○水沢測地観測所（位置図・構内図）



※地理院タイルに測地観測所を追記

位置図



①正門
②事務室・記録計室・車庫
③水準点
④三角点
⑤地磁気絶対観測室
⑥地磁気変化計室
⑦リレー室
⑧プロトン磁力計
⑨プロトン磁力計
⑩方位標
⑪電子基準点
⑫オーバーハウザー磁力計
⑬旧MT連続観測点
⑭ボアホール
⑮地磁気連続観測装置の収納箱
⑯ポンプ室

構内図

別紙２

事務所・記録計室



車庫



リレー室



プロトン磁力計



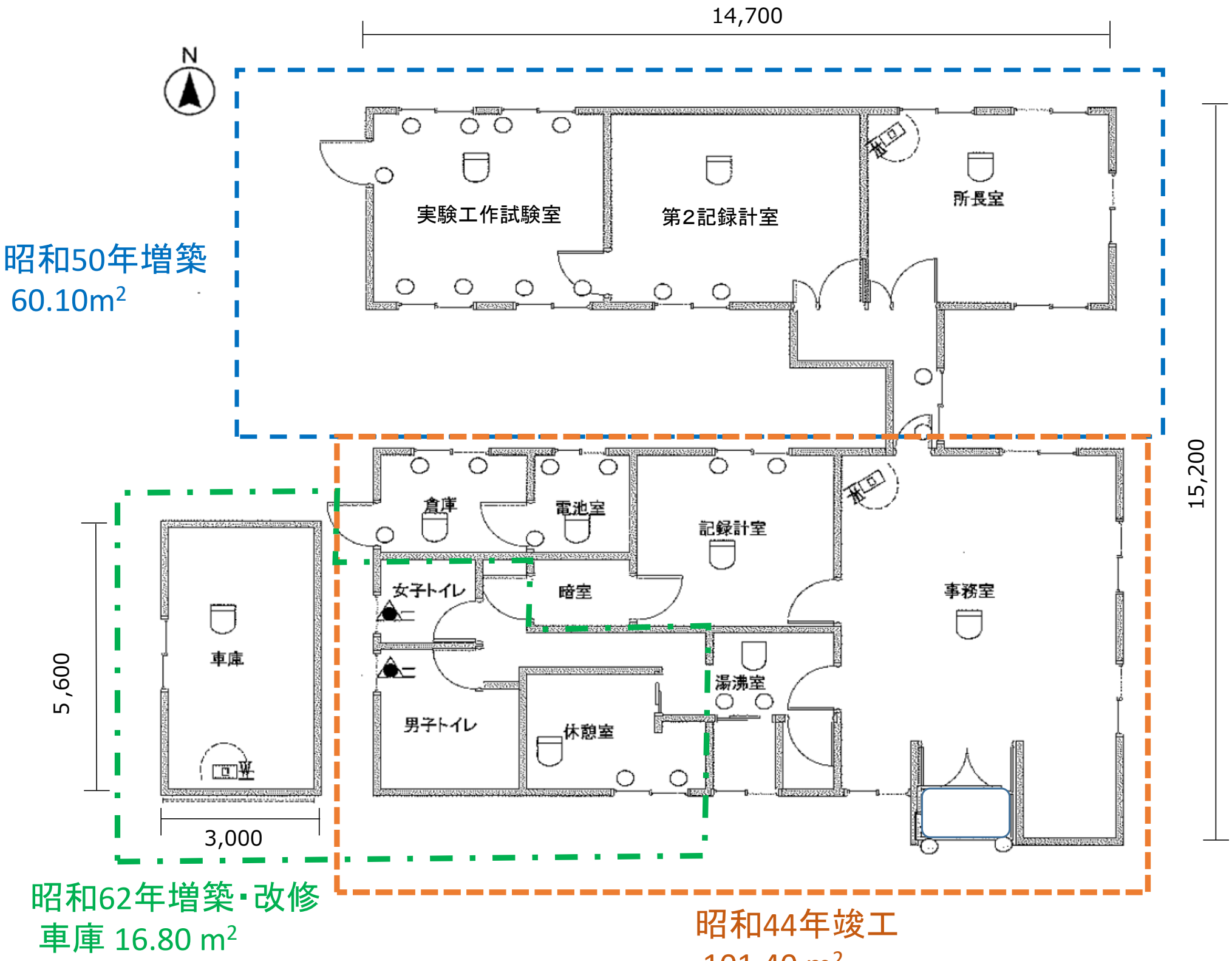
ポンプ室



別紙３

○事務室・記録計室・車庫

鉄筋コンクリート造



昭和50年増築
60.10m²

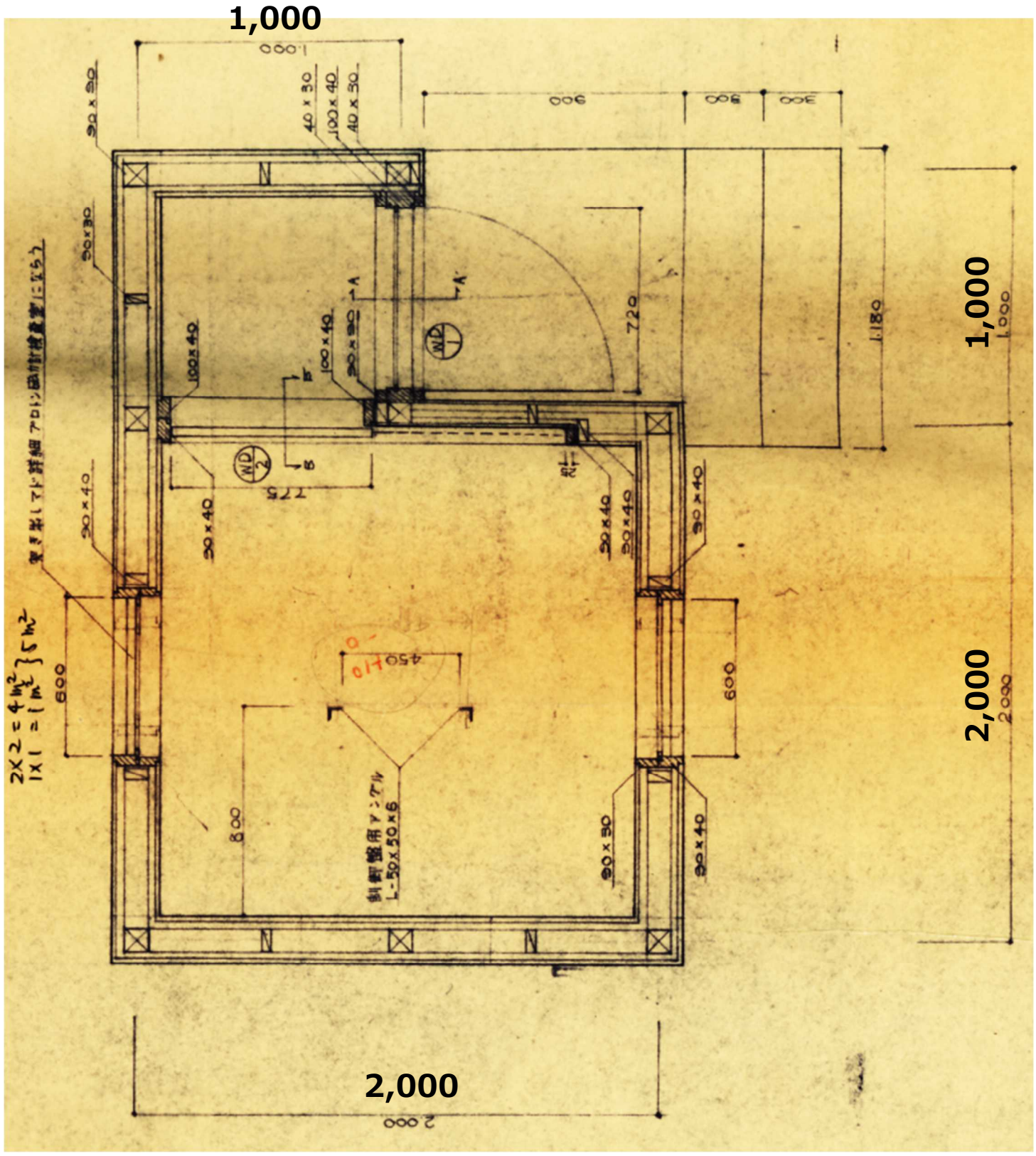
昭和62年増築･改修
車庫 16.80 m²

昭和44年竣工
101.40 m²

別紙４

○リレー室

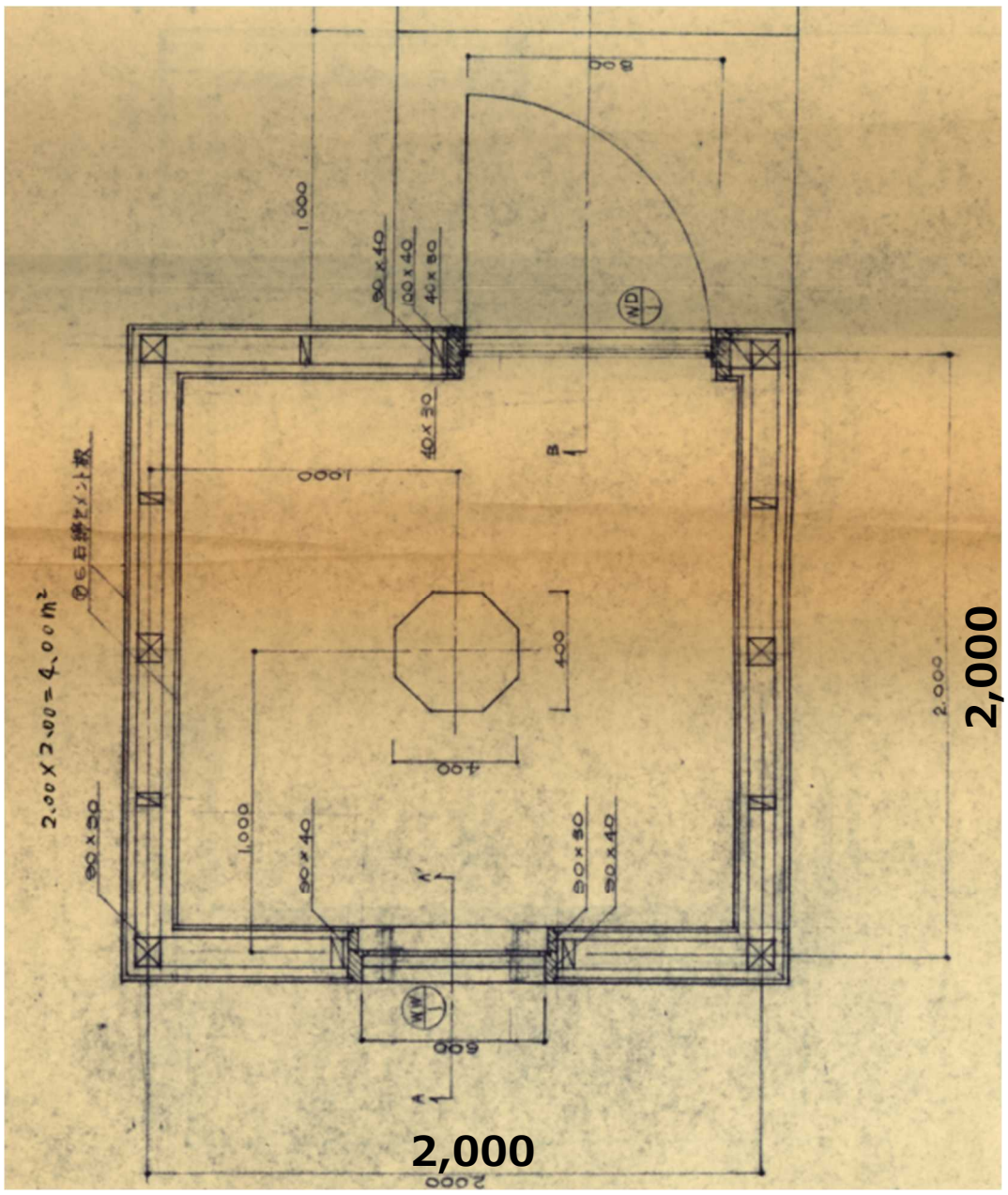
木造
5.0 m^2
昭和44年建築



別紙５

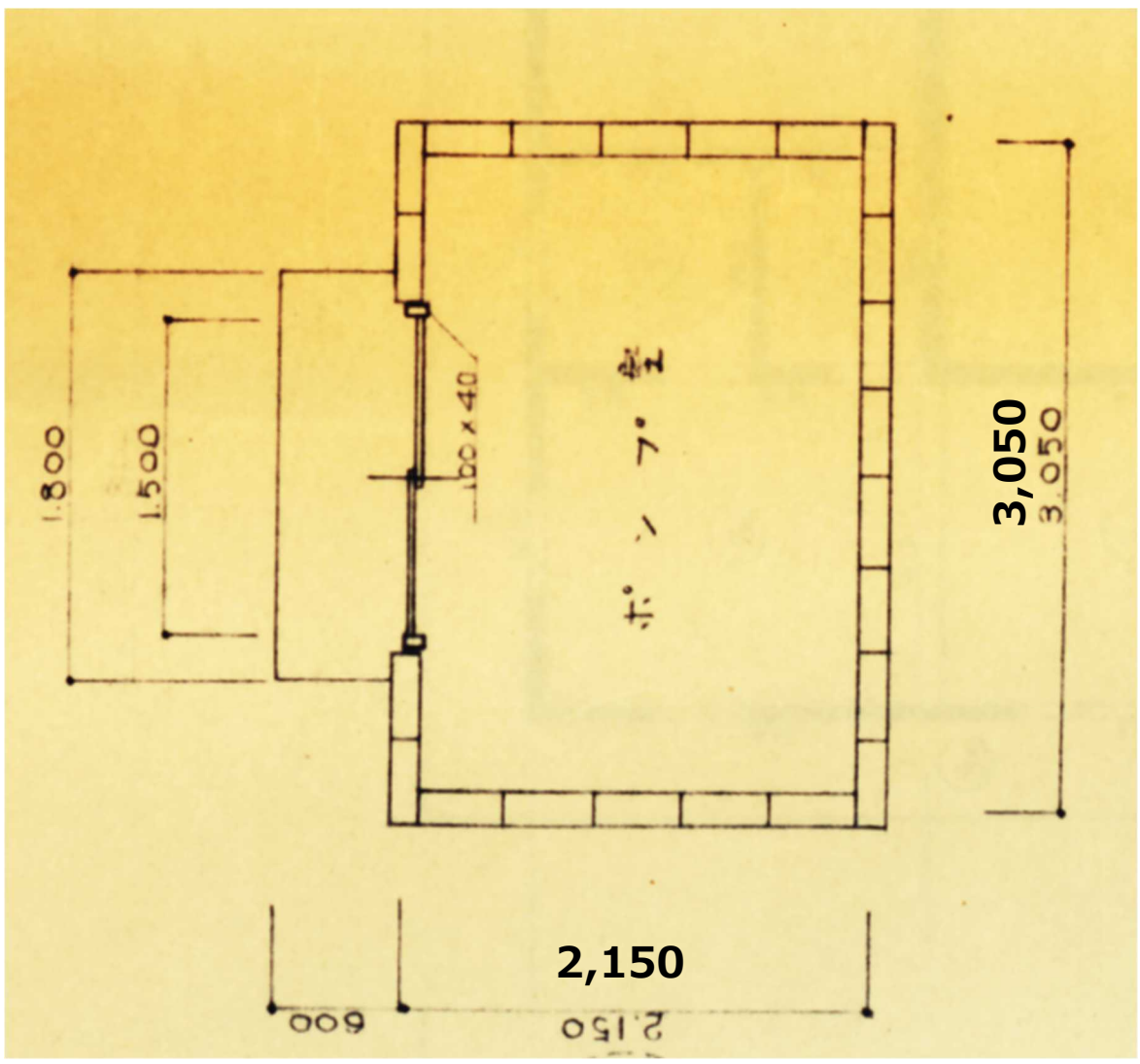
○プロトン磁力計室

木造
4.0 m^2
昭和44年建築



○ポンプ室

コンクリートブロック造り
6.6 m^2
昭和44年建築



昭和44年建築部分　仕様

別紙６

地磁気観測所(水沢) 建築 その他　　工事仕様書

Ⅰ 工事概要

1 工事場所　岩手県水沢市黒石町字内熊ヶ沢 42.43－1番
2 工事種目
○ 建物

1	地磁気変化計室	ステレス筋コンクリート造 平家建 44.67㎡(木造部)新築 25.31㎡(ステレス筋造部)		1棟
2	地磁気絶対観測室	木造 平家建 19.96	新築	1棟
3	プロトン磁力計室	木造 平家建 4.00	新築	1棟
4	プロトンリレー室	木造 平家建 5.00	新築	1棟
5	勤務室兼記録計室	壁式鉄筋コンクリート造平家建 106.40	新築	1棟
6	ポンプ室	コンクリートブロック造平家建 6.55	〃	1棟

○ 雑構工事

1	擁壁		新設	1式
2	プロトン磁力計開閉ブロック	石造(花崗岩)	新設	1式
3	方位標ブロック	無筋コンクリート造	新設	1式
4	井戸	コンクリート製枠	新設	1式
5	排水設備		新設	1式
6	囲障	門,standard, 境界標	新設	1式

○ 外構工事

1	構外道路	中2.5m 砂利道	新設	1式
2	構内道路	中2.0m コンクリート舗装	新設	1式

○ 機械設備工事　　新設 1式

Ⅱ 建築工事仕様

1. 図面および特記仕様に記載されていない事項はすべて建設省営繕局制定建築工事共通仕様書(昭和40年版)による。
2. 特記仕様の取扱いについては次による。
   1) 項目は番号に○印をつけたものを適用する。
   2) 特記事項は，◎印をつけたものを適用する。◎印のない場合は※印をつけたものを適用する。
3. 特記事項に記載の(　　)内表番号および項目番号は建築工事共通仕様書の当該表および当該項目を示す。

特記仕様

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	① 適用基準等	◎鉄筋コンクリート構造配筋要領 昭和43年4月 建設省営繕局 ◎建築用塗料一覧表 昭和43年 営繕協会
	② 建築材料業者等	建築材料の製造所，商品，施工業者等は特記されたもの又は同等以上とする。 ただし同等以上とする場合は，監督員の承認をうける。 建築工事共通仕様書(昭和40年版)に記載されていない特別な材料の工法は，当該製品指定工法による。
	③ 特別な材料の工法	
	④ 工事写真(各建物毎)	分類 / 種別 / 撮影枚数 / 部数 / 原版の大きさ 着工前 / 名刺版 / 5枚 / 1部 / 24㎜×36㎜以上 工事中 / 名刺版 / 5枚 / 1部 / 同上 完成時 / 名刺版 / 5枚 / 2部 / 60㎜×90㎜以上 完成時 / カラー写真(スライド) / 枚 / 1部 / 24㎜×30㎜ 完成写真撮影業者　※監督員の承認による　(看板を撮す)
	⑤ 色彩等の決定	設計担当課にて行ない監督員を通して指示する。
	⑥ 設備工事との取合い	埋込型電灯器具等の取付に必要な天井開口部の枠組および天井壁吹出口等の取付に必要な開口部の枠組は本工事に含む。
2 仮設工事	① 監督員事務所	・1号 ◎2号 ・3号 ・4号 ・3.3㎡ ・設けない　(2.3.2表)
	② 工事用水	構内既存の施設 ・利用できる ◎利用できない
	③ 工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる ◎利用できない
3 土工事	① 基礎根切底の判定	・地耐力試験による(　　ヶ所)　※土質の確認による(設計耐力 15 ton)
	② 残土処分	※構外搬出 ◎構内敷均し ・構内の指示の箇所にたい積　(3.2.5)
	③ 盛土	※根伐の良土 ・構外搬入(種別　　)
4 地業工事	1 遠心力鉄筋コンクリートくい	長さ　m 径　mm (長期設計耐力　ton)　(4.1.1)
	2 ぐい	継手 ※なし ・あり (・ホゾ式 ・充てん式 ・溶接式 ・ボルト式)
	③ 割ぐり石および玉石地業	材料の種別 ・A種 ◎B種 ◎笹崩岩　(4.4.1表)
	4 砂利地業	材料の種別 ※切込砂利 ・砂利(径　mm)　(4.5.1)
5 鉄筋コンクリート工事	① セメントの種類	※普通ポルトランドセメント ※シリカセメントA種 ※高炉セメントA種 ※フライアッシュセメントA種　(5.2.1)
	② 粗骨材	◎砂利 ◎砕石(花崗岩)
	③ 表面活性剤	※AE剤 ウィンゾール，チューポールC，プロテックス ・分散剤 オーロン，サンフロー，チェリーB，パリックS，プラストクリート，ポゾリス(日本建設工業KK)　(5.2.4)
	④ 鉄筋の材質	※丸鋼 ※A種 ◎B種 ◎ステンレス筋 NTK305 (5.2.4表) ・異形鉄筋 ・SD-35 ・SD-40 ・A スミバー RIVERCON DACON NKKハイテング FUJICON ・135 Kg/㎠ ・A種 ※B種 ・C種　(5.3.1) ・B 王鉄バー ONICON シバコン K-CON ・150 Kg/㎠ ※180 Kg/㎠ ・210 Kg/㎠　(5.3.2表) ※使用してもよい ・使用する
	⑤ 設計基準強度(Fc)	建物 ※A種(平家建) ・B種 ◎スラブ NTK305 (5.5.1表) 工作物 ・A種 ※B種 (雪化対策，絶対観測室，プロトン磁力計室，プロトンリレー室)
	⑥ 施工級別	◎コンクリート打放し仕上げ面のせき板の仕様 ◎材種は，杉 とし，100㎜内外及び厚さは18㎜以上とし，コンクリートに接する面は鉋掛け，そばさねはぎ継目違い入れとし，堅固に組立てる。仕上面の緊張材，セパレーターの穴はコーキング材を填充の上防水モルタルをつめ平担に仕上げる。 ◎合板使用の場合，材種は ラワン とし，1類⑦4㎜以上とする。
	⑦ レデーミクストコンクリート	
	⑧ せき板および緊張材の種別	
	⑨ 継手と定着	耐力壁以外の壁の重ね継手および定着の長さは25d とする。
	⑩ 鉄筋のガス圧接	施工範囲 ・径16㎜以上 ※径19㎜以上　(5.6.3(C)) 圧接試験 試験方法はJASS 5(昭和40年度版)による。 施工業者 日本ガス圧接協会会員とする。
	⑪ 鉄筋のかぶり厚さ	施工箇所 / 5.7.1表の値に加える寸法 耐久上不利な箇所 / ※10㎜ 特に耐火性を必要とする箇所 / ※20㎜　(5.7.1)
	⑫ 寒中コンクリートの施工期間	月～月　(5.8.2)
	⑬ 防水コンクリート施工	スランプ15㎝以下，水セメント比55%以下 屋根敷表面より約10㎝下に溶接金網(10φ @150㎜ 1目重ね)を敷きならべ，タンピング後木ごてずり仕上とする。
	⑭ 無筋コンクリート 14-1 セメントの種別 14-2 粗骨材の大きさ 14-3 設計基準強度 14-4 調合種別	※鉄筋コンクリート工事の(5.2.1)による。　(5.2.1) 最大寸法はコンクリート断面の1/4以下かつ40㎜以下とする ただし捨てコンクリート厚さ10㎝の場合は5.2.2.C(1)による。 ・　Kg/㎠　(5.3.3)(5.12.1) ・A種 ※B種 ・軽量コンクリート(調合　　)　(5.11.1) ・豆砂利コンクリート (現場調合容積比 セメント：砂：豆砂利＝1：1：2
	⑮ 打継ぎおよびこれに準ずるコンクリート	

6 鉄骨工事	1 鋼材ボルトおよびナットの材質	※A種 ・B種　(6.2.1表)
	2 リベットの形状	※丸リベット
	3 高力ボルト	形状，材質 JIS.B1186の規格品 セットの種類 ※2種 ・3種　(6.2.3) 工法 日本建築学会 高力ボルト摩擦接合施工基準(1965)
	4 アンカーボルト	
	5 鉄骨加工業者	仕上げ程度は黒とする。
7 おおよびれんが工事 コンクリートブロック	① 空胴コンクリートブロックの種別 1-1 普通ブロック 1-2 防水ブロック	(7.2.2) 帳壁 ※A種 ・B種 ・C種 耐力壁 ・B種 ※C種の規格品 ※C種の規格品
	2 防水ブロックの目地用防水剤	左官工事の第1項による。
	3 れんがの種類および品等	
8 防水工事	① 防水層の施工箇所および種別	施工箇所 / 分類 / 工法の種別 事務室屋根 / アスファルト防水 / A-2　(8.1.1表，8.1.2表)
	② アスファルト防水 2-1 材料の製造所 アスファルトコンパウンド アスファルトルーフィングおよびアスファルトフェルト(特殊ルーフィング) 2-2 施工業者 2-3 露出防水の施工業者	田島応用化工KK 日新工業KK 日本瀝青工業KK 田島応用化工KK 日新工業KK KK東京興業貿易商会，日新工業KK，日本瀝青工業KK，三星興業KK KK東京興業貿易商会(D-152)，日新工業KK(NC-14)， 日本瀝青工業KK(NRC-3)，三星産業KK(F-20)
	3 合成ゴム系または合成樹脂系防水の施工業者	
	4 モルタル防水の施工業者	佐々木工業出張所，KK日本セメント防水剤製造所，マグナ工業KK，KK油脂化工社
	5 シリコン系ぱっ水剤	材料 A エバータイト7A TS811 B エバータイト5A ボロンA 工法 ※吹付け ・刷毛塗り 塗り回数 ・1回塗 ※2回塗
9 石工事	① 石材の種類および仕上げ	施工箇所 / 種類(産地) / 仕上げの種類 地盤面，プロパン機械，プロパン室 / 花崗岩(岡崎産御影) / 内部 粗みがき 外部 とぶまいし 変化計室床，プロパン室 / 同上 / 本みがき 絶対観測室，プロパン室の計器架台 / 大理石(岡崎白雪) / 〃
	② 石材の品質	・1等品 ※2等品 ・3等品　(9.1.1～9.1.3表)(9.2.1表)
	③ 石材の施工業者	熊取谷石材工業KK，関ヶ原石材KK，高庄石材店，高橋石材店，(9.1.1)
	4 テラゾの仕上げの種類	東洋テラゾー工業KK，常陸大理石KK
	5 擬石張りの仕上げの種類	壁 ・水みがき ※本みがき 床 ※水みがき ・本みがき ・粗みがき ・小叩き ・つつき
	6 テラゾーブロックの製造所	石材の施工業者による。　(9.4.1表)
	7 擬石の製造所	石材の施工業者による。
	○ 石積工法	本綱方式による。
10 タイル工事	① タイルの種類	種類又は施工箇所 / 素地の質 / 表面仕上げ / 寸法 内壁 手洗便所 / 磁器 / 無釉 / 25×25 モザイク 〃 浴室便所 / 磁器 / 施釉 / 25×25 〃 〃 水風呂室 / 陶器 / 無釉 / 115×115 〃 〃 / 磁器 / 施釉 / 60×105(小口平)
	② タイルの品質	※1級品 ・2級品 ・3級品
	③ 壁タイル張りの工法	※普通工法 ・接着張り工法　(10.1.1)
	4 タイルの役物	※使用する(ただしモザイクタイルを除く) ・使用しない　(10.1.3)
	⑤ タイルの製造所	イ外装タイル，有田タイルKK，伊奈製陶KK，岩尾磁器工業KK，淡陶KK，日本陶管KK ロモザイクタイル 有田タイルKK，伊奈製陶KK，GK上山製陶所，淡陶KK，日本陶管KK ハせっ器質タイル 伊奈製陶KK，日本陶管KK ニ半磁器質タイル 伊奈製陶KK，GK上山製陶所，淡陶KK，佐治タイルKK ホ硬質陶磁質タイル ヘよう変タイル 磁器質 ・クランクタイル ・クラフトタイル ・ファンタジア 陶器質 ・近江タイル ・ハンドクラフトタイル ・泰山タイル
	6 調和剤の種類	監督員の承認による。
	7 外壁用特殊目地材	・KS目地 ・タイロン ・NS目地セメント ・施工箇所(　　)
11 木工事	① 材料の種別	木材の含水率 ・A種 ※B種 ・C種　(11.1.1表) 構造材および下地材の等級 ・A種 ※B種 ・C種　(11.1.2表-1) 造作材の等級 ・A種 ※B種 ・C種　(11.1.2表-3) 手加工 ・A種 ※B種 ・C種　(11.1.3表) 機械加工 ・A種 ※B種
	② かんな削りの種別	・使用してよい ・使用しない
	3 輸入材	・施工箇所(　　) ・構造材(　　)
	4 つり木	※木 ・造作材(　　)
	⑤ つり木用インサート	※使用する ・ボルト SSインサート (予算室兼記録計室のみ)
	⑥ 造作材にラワンを使用する場合	防虫処理 ・熱処理 ・薬液浸せき ※薬液塗布
	◎ 梱包荷造	釘は全物質はすべて黄銅製とし錆性強度に合格したものでなければ使用してはならない。(但し第4章第2節ロ計算を除く)
12 屋根およびとい工事	1 下葺板	※要 ・不要
	2 垂木	イ)平板 厚 ・0.5% 一般部分 ・28φ ※30φ ロ)波形 厚 ・0.4% 谷部分 ・26φ ※28φ　(12.1.1) 屋根 ・28φ ※30φ　(12.2.1) 壁 ・28φ ※30φ ハ)長尺物 専管 0.5% (落化対策) 種別 ※大波 ・小波 ・大波 ※小波
	アルミ平板	
	アルミ反板	
	3 石綿スレート波板	種別 ・大波 ・小波 ・鋼管　(12.4.1)
	4 たてといの種別	・亜鉛鉄板 ・プラスチック製 ※ガス管(白)
	5 プラスチック製とい	<製造所> ・エスロン雨樋エース ・ヒシ雨樋 ・ナショナル樋 ・タキロン
	6 ルーフドレーン	<製造所> ・A KK長谷川鋳工所 ※B 伊藤鉄工KK，第1機材KK
	7 たてといの防露	※行なう(機械設備共通仕様書，排水設備の保温) ・行なわない　(12.5.6)
13 左官工事	1 防水モルタル塗の防水剤	ウオータイトB シフカーB，マノール
	2 上塗りモルタルの混和剤	
	3 プラスタの種類	・配合せっこうプラスタ ・ドロマイトプラスタ　(13.3.1)(13.4.1)
	4 人造石とぎ出し	施工箇所 / 種石の種別 / 調合および塗り厚 / 仕上げの種類 ※A種 ・B種 / ※A種 ・B種 / ・A種 ※B種 ※A種 ・B種 / ※A種 ・B種 / ・A種 ※B種
	5 人造石とぎ出しの目地	壁 ※化粧目地塗り ・黄銅製目地棒(13.6.1表のB種) ・目地なし　(13.5.1表～13.5.3表)
	6 床現場テラゾ塗り	床 黄銅製目地棒(・A種 ※B種) ・目地なし　(13.6.1表)
	7 ビニル系塗り床	目地棒 ・A種 ※B種　(13.6.1表)
	8 モルタル着色床	調合および塗り厚 ・A種 ※B種　(13.6.2表)
	9 色モルタル吹付け	・A カラクリート，カラクローン ・B フエロコン，マスタープレート ・共通仕様書による ※リシン系(キクスイリシン，タイヤリシン)

昭和44年建築部分　仕様

別紙７

木製建具

①	木材の種別	• A種　※B種　• C種　（14.1.1表）
②	木材の樹種	14.1.2表によるほか，すぎの代りにべいひ，アラスカひのきを使用してよい。
③	普通合板の樹種	生地のまま，または生地のみえ透く塗装をする場合　（14.1.3表）
4	建具材にラワンを使用する場合	※ラワン　• 化粧合板（　） 生地を表わさない塗装をする場合　⊙しな　※ラワン 防虫処理　※熱処理　• 薬液浸せき　• 薬液塗布

鋼製建具

5	サッシバーの種別	• A種　※B種　• C種　（14.2.1表）
6	鋼板の種別	※　ボンデ鋼板の類　• ボンデ亜鉛鉄板の類　（14.2.1のb）
7	気密度	• 熱間圧延薄鋼板　• 冷間圧鋼板
8	製作所	• A　昭和鋼機KK，東京カーテンウォール工業KK，日本建鉄KK，不二サッシ工業KK
9	既製建具の製作所	• B　三機工業KK，鹿島工業KK，東京建鉄KK，日本金属精工KK，理研工機KK， • A　三機工業KK，東京カーテンウォール工業KK，日本建鉄KK，不二サッシ工業KK • B　近畿工業KK，日本金属精工KK，八幡エコンスチールKK

アルミニューム製建具

⑩	表面処理	※共通仕様書（14.3.2のb）による。
⑪	気密度	⊙A　三協アルミニューム工業KK，昭和鋼機KK，東京カーテンウォール工業KK 日軽アルミニューム工業KK，不二サッシ工業KK
⑫	製作所	⊙B　ホクセイアルミニュームKK，日本建鉄KK， 三協アルミニューム工業KK（3A），昭和鋼機KK（~~SR~~ S-S）， 日軽アルミニューム工業KK（RH），日本建鉄KK（PA） 不二サッシ工業（FR）， 日本アルミ工業KK（NA）
⑬	既製建具の製作所	

建具金物工事

⑭	見えがかり部の仕上げの種別	青銅　※A種　• B種　（14.4.1表） 黄銅　• A種　※B種 ステンレス　（ピボットヒンジ，モノロック）
⑮	製作所	⊙ 中西産業KK（仙台竹内倉物商報）
15-1	丁番	• A　HORI，HMC 中西産業KK　• B　STD，NAKANISHI，BEST
15-2	棒かぎ錠	• A　GOAL，HORI，~~HMC~~ H　• B　SOWA，NKC，MIWA
15-3	シリンダー箱錠	• A　GOAL，HORI，HMC 中西産業KK　• B　SHOWA，NKC
15-4	モノロック	円筒形　• A　UNILOCK-UH，MIWA-BWH　• B　SEVEN-LOCK，SD UNILOCK-USP， 箱型　UNILOCK-NP　MIWA-HM，
15-5	ドアチェック	ダイヤモンド，ニッカナ，ニュースター，~~HMC~~ 中西産業KK
15-6	フロアヒンジ	ダイヤモンド，ニュースター，~~HMC~~ H，~~HMC~~ 中西産業KK
15-7	ピボットヒンジ	• A　GOAL，HORI，HMC　• B　SOWA，NKC，MIWA
16	マスターキー	
17	ドアチェック	※面付け型　• 埋込型　※ストップ付　• ストップ無し
18	フロアヒンジ	※ストップ付　• ストップ無し
◎	特記事項	建具金物はすべて黄銅製または~~アルミ~~ステン製品（ただし~~ハンドル~~ハンドルは鋳鉄製同じ）で，強性検査に合格したものでなければ使用してはならない。（但し学校営繕記録訂正を除く）

防火シャッター

19	スラット	※1.6（甲種防火戸）
20	スラットの型	※インターロッキング形　• O形びょうつづり形　（14.5.1）
21	機構	※手動併用電動式（※ロープ式　• チェーン式　•　）　（14.5.2表）
22	製作所	• 手動式　（• ロープ式　• チェーン式　•　） KK大野製作所，小俣シャッターKK，鈴木シャッターKK，日本建鉄KK 三和シャッターKK

軽量シャッター

㉓	スラット	※0.6　⊙ 0.8
㉔	製作所	三和シャッターKK，鈴木シャッターKK，東洋シャッターKK　（14.6.1表） 日本文化シャッターKK

その他

㉕	ガラスの種別	（14.7.1）
25-1	普通板ガラス	• A級品　※B級品
25-2	みがき板ガラス	• 特級品　※標準品
25-3	網入ガラス	• みがき板　※型板
25-4	復刃ガラス	5+6+5　日本板ガラスKK，旭ガラスKK
㉖	パテ等の種類	木製および鋼製建具　※1種　• 2種　（14.7.1のb）
		アルミニューム製建具　※2種　• 軟質塩化ビニル系　（14.7.1のb，c）

塗装工事

①	塗料の製造所	川上塗料KK，関西ペイントKK，神東塗料KK，大日本塗料KK 東亜ペイントKK，日本ペイントKK，日本油脂KK 商品名は「建築用塗料一覧表」昭和41年官繕協会による
2	鉄部素地ごしらえの種別	鋼製建具，手すり，さくの類　（15.2.2表） 雨かかりおよびこれに準ずる箇所　※A種　• B種 その他の箇所　• A種　※B種 その他　• A種　• B種
③	調合ペイントの種別	屋外　※油性調合ペイント　• 合成樹脂調合ペイント　（15.3.1）
④	調合ペイントの塗装種別	屋内　• 油性調合ペイント　※合成樹脂調合ペイント
5	さび止め塗料	• A種　※B種　• C種　（15.3.1表） 鉄部 鋼製建具　• A類　※G類 手すり，さくの類　※A類 その他　※E類 垂鉛めっき面（塗装種別B種の場合）　（15.1.1表，15.3.4表(1)(2)） 鋼製建具　※G類2回 手すり，さくの類　※G類2回 その他　※E類
6	木部クリヤラッカー塗りの塗装種別	• A種　※B種　• C種　（15.4.1表）
7	木部ラッカーエナメル塗りの塗装種別	• A種　※B種
8	ラッカーエナメルのみがき仕上げ	木部　• 行なう　※行なわない　（15.4.2表の注3）
⑨	合成樹脂エナメル	鉄部　• 行なう　※行なわない　（15.5.3表の注3）
⑩	合成樹脂エナメル塗りの塗装種別	⊙ビニル系　• アクリル系　• フタル酸系　（15.6.1表）
⑪	合成樹脂エマルションペイント	ビニル系またはアクリル系　• A種　※B種　（15.3.1表）
⑫	合成樹脂エマルションペイント塗の塗装種別	フタル酸系　※A種　⊙B種　（15.6.1表）
13	多彩色ペイント	⊙ビニル系　• アクリル系　• ゴム系　（15.7.1表）
14	塗装業者	• A種　※B種 ゾラコート　ビスターコート　テレス 日本塗装工業会員とする。
		本研下塗1回　塩化ビニールプライマー（本研用） 中塗1回　上塗1回

内装工事

①	壁の種別	• A種　※B種　• C種　（16.2.1表，16.2.2表）
2	フローリングボード張り	樹種　※ふな　• なら　（10.3.1）
③	油脂および樹脂系床材	材料の種別　• A種　※B種（厚さ15㎜）　• C種　（16.3.1表）
		仕上げの種別　※A種　• B種　（16.3.2表）

色模様別	厚さ㎜	製造所または商品名
※茶色　• その他	• 2　※2.5	東洋リノリュームKK
※無地　• ジャスペ	• 3　• 4	
※無地　• その他	• 2　• 2.5 • 3	川口ゴム工業KK　日本ビノリュームKK
※暗色　• 明色	• 3	田島応用化工KK　東洋リノリュームKK
• 無地　※その他		日新工業KK　藤森建材KK
• 無地　※その他	※2　• 3	軟質：ソフトンタイル，マチコソフト，マルエスソフトロンタイルα
		※半硬質：ケミタイルCM，セキスイユータイル，ニットータイル，プラスタイル，ビニアスタイル，ビニエスタイル，ビメタイル，ポリマーブルPM，PF，SM，マチコT，セキスイタフタイル，ナショナルパンタイルS，マチコS，ロンタイル

3-1	リノリュームシート	
3-2	塩化ビニル系シート	
3-3	アスファルト系タイル	
3-4	プラスチック系タイル（石綿を含むもの）	
3-5	（石綿を含まないもの）	
④	特殊アスファルト塗床（耐酸アスファルトモルタル塗）	KK川口商工社，日新工業KK，日本瀝青工業KK ⊙ 施工箇所　電池室　充電室 仕様は仕上表共通事項による。

内装工事

5	繊維板	工法　※B種　• C種　（16.6.2表）
5-1	軟質繊維板	厚さ　• 9　• 12　• 25　寸法（　） 厚さ　• 6　• 9　寸法（　）
5-2	半硬質繊維板	厚さ　• 3.5　• 5　• 6.5　寸法（　）
5-3	硬質繊維板	工法　• B種　※C種　（16.6.2表）
⑥	石膏ボード	厚さ　• 7　⊙9　• 12
⑦	吸音板	工法　• B種　※C種　（16.6.2表）
	穴明軟質吸音板	厚さ　• 9　• 12　寸法（　）
	穴明半硬質吸音板	厚さ　• 9　• 12　寸法（　）
	穴明石膏ボード	厚さ　⊙7　• 9　• 12　寸法（　）
⑧	石綿セメント板張り	工法　• B種　※C種　（16.6.2表）
		厚さ　平板　⊙5　• 6　• 9　寸法（　）
		フレキシブル板　• 2　• 3　• 4　寸法（　）
		軟質　• ④　• 5　寸法（　）
9	木毛セメント板張	種別　• 細木毛　※太木毛
10	岩綿吸音板	工法　• C種　※コンクリート打込
		厚さ（㎜）　寸法（㎜）
⑪	合板	商品名　• A　アコーロックスパー　ミネラートン
11-1	普通合板	• B　アコーロック　ダイロートン　ロックスター
11-2	特殊合板	素地の見え透く塗装をする場合　※ラワン
11-3	化粧合板	素地を現わさない塗装をする場合　※しな　• ラワン
		工法　• B種　※C種　（16.6.2表）
		永大産業KK　ニューデラックス　同等品以上
12	合成樹脂板	形状寸法
12-1	メラミン化粧板	商品名　• A　デコラ，ヒッターライト，パネライト　• B　デコン，メラニット
12-2	塩化ビニル樹脂板	形状寸法
13	紙，布，プラスチック張り	商品名　エフロンプレート，タキロンプレート，ヒシプレート

施工箇所	商品名	裏うちの場合	工程（16.7.2表）
			• A種　※B種　• C種
			• A種　※B種　• C種
			• A種　※B種　• C種

13-1	下張り	※要　• 不要
⑭	保温材	製造所　旭ダウKK　積水スポンジ工業KK
		形状寸法　⊙50　⊙12
		⊙ スタイロホーム　または同等品以上
		⊙ 岩綿（ロックファイバー）　密度 0.15g/cm³　日東紡建材KK　同等品以上

鋪装工事

17	路盤材料	• A種　※B種　• 玉石　（17.1.1表）
2	締固めの種別	• A種（支持力　）　※B種　（17.1.3表）
3	コンクリート鋪装	目地板材質　※アスファルト系　• 木
		厚さ　※10㎜　• 12㎜　• 15㎜
		注入目地　※行なう　• 行なわない
		コンクリートの種別　• A種　※B種　• C種　（17.1.2表）
4	アスファルト乳剤鋪装の種別	• A種　※B種　（17.2.2表）
5	アスファルトコンクリート鋪装の構成種別	表層　• 粗粒度アスファルトコンクリート　• 修正トペカ　（17.3.2表） ※密粒度アスファルトコンクリート　• トペカ 基層　※粗粒度アスファルトコンクリート
6	コンクリート平板鋪装	目地　※砂目地　• 1：3モルタル　（17.4.1表）

排水工事

①	排水管の種別	※陶管　• 厚陶管　• 特厚陶管　（18.1.1）
②	ためますの種別	• 鉄筋コンクリート管　• 遠心力鉄筋コンクリート管
③	ますふた	⊙A　• B　（18.1.1表）
4	鋳鉄製マンホール	※コンクリート　• 鋼板　• 鋳鉄製　（18.1.2～3表）
⑤	ステンレス製コンクリート蓋	雑工事による。 ⊙ 図面による

雑工事

1	コーナービード	材料　※ステンレス　• 黄銅　• プラスチック　（19.1.1）
2	階段すべり止め	施工箇所　プラスター塗り柱，壁の出隅（高さ　※1.8m　• 天井まで）
③	鋳鉄製マンホール	材種　※黄銅製　• 鋼　• ステンレス　• 磁器　• アルミ　（19.1.2）
19 ④	室名表示	形式　※タイヤ入り（　本）　• タイヤ無し
5	黒板	製造所　• A　KK中博光商店，扶桑工業KK　• B　アトラス産業KK，富士金物KK
6	カーテンレール	型式　※並型（クサリ付）　• 防臭型　• 耐重型
7	ベネシャンブラインド	製造所　• A長谷川鋳工KK　※B伊藤鉄工KK　第1機材KK
⑧	ステンレス流し	⊙既製室名札　詳細標準図による • とびら文字　材種　寸法　箇所
⑨	コーキング材	材質　※木製（JISマーク表示製品）　• 鋼製　（19.1.4）
		色　• 黒　※緑
		製作所
		材質　※ステンレス　アルミニューム
		型式　※C型　※D型　※SM型
		製作所　東装KK　ヨコタ金属KK　エスエム工業KK
		スラットの材種　• 鋼　※アルミニューム　• プラスチック
		型式　※単一操作　• 複式操作
		製作所　立川ブラインド工業KK，日米ブラインド工業KK，KKライト製作所
		型式　KJ 67-3A　同等品以上
		製作所　サンウェーブ工業KK，KKナスステンレス製作所，日本エナメルKK

施工箇所	種別	商品名
外部建具廻り	油性系	油性系
アスファルト防水笠木廻り	〃	• A　エバシール，ファインコークKG
基礎も廻り	〃	⊙B　ABCコーキング，ゴーレックスP，ユニロン三星コーキング

10	砂利敷の種別	通路その他　※A種　• B種　（19.2.1表）
11	芝の品種	建物周囲　※B種
12	境界石標	※野芝　※こうらい芝
		※花こう石または硬石製　（19.4.1表）
③	浴槽	⊙コンクリートブロック製（FB48）
⑭	吊戸棚	⊙ タカラKS型　トートライトバス　800×700×600
		⊙ サンウェーブ KJ-67型　（A）同等品以上

⑮	使用材料区分	名建物の使用材料は○印による。（変化対応のない ひな標は上記にならう）
⑯	材料検定	共用プロック方位棟の使用材料は変化対応に合じ。
⑰	集成材	鋼骨材とあるは水研北上川橋梁鋼材に準じ防錆処理とする。
		材料の検定は施工性能試験（TYPE-LS-2）構内各所に使う製品で各材料の標性と面積を立てる上検定を受け強性能面の統計観測（学プロトン試験）対象の使用材料は10㎜W内，変化対応，プロトンリレー室，各位標下用プロックは50㎜W内とする。
		⊙ 三井木材KK，同等品　（変化対応）　48.5

建物名	要否	変化対応	学プロトン試験対応	備考
変化対応室		○	○	
標準観測室	○	○	○	
プロトン試験対応室	○	○	○	
プロトンリレー室	○	○	○	
各位標下用ブロック	○	○	○	

地磁気観測所(水沢)建築その他工事

仕様書

東北地方建設局営繕部

部長	課長		

昭和44年建築部分　仕様

別紙8

外部仕上

区分	壁 仕上	壁 高	壁 色	壁 仕上	壁 塗装	壁 色	庇 上端 仕上	庇 上端 塗装	庇 上端 色	庇 はな 仕上	庇 はな 塗装	庇 はな 色	庇 下端 仕上	庇 下端 塗装	庇 下端 色	屋根 仕上	屋根 塗装	屋根 色	建具 種別	建具 塗装	建具 色	その他 仕上	その他 塗装	その他 色	摘要
地磁気変化計室	コンクリートあらわし			アスファルトルーフィング下地アルミ平板葺（妻側）長尺アルミ板葺			アルミ平板葺			木製			石綿セメント板	VP		アルミ平板葺 アスファルトルーフィング下地			木製	VP		木部	VP		U字型コンクリート側溝、犬走り、プラスチック製ガラリ
地磁気絶対観測室	コンクリートあらわし			花崗岩積 上部石綿セメント板張 亜鉛製エッジ付（工型）	VP		アルミ成形葺			木製			石綿セメント板	VP		アルミ成形葺 アスファルトルーフィング下地			木製	VP		合と	合と		犬走り
プロトン磁力計室	コンクリート打放し			石綿セメント板張 亜鉛製エッジ付（工型）	VP								石綿セメント板	VP		アルミ成形葺 アスファルトルーフィング下地			木製	VP		合と	合と		犬走り
プロトンリレー室	コンクリート打放し			石綿セメント板張 亜鉛製エッジ付（工型）	VP											アルミ成形葺 アスファルトルーフィング下地			木製	VP		合と	合と		犬走り プラスチック製ガラリ
共通事項等																									

内部仕上

建物階	室名	床 仕上	床 厚	床 色	巾木 仕上 高	巾木 塗装	巾木 色	壁 腰 仕上 塗装 色	壁 上部 仕上 塗装 色	天井 仕上	天井 塗装	天井 色	梁型 仕上	梁型 塗装	梁型 色	建具 種別	建具 塗装	建具 色	その他 仕上	その他 塗装	その他 色	摘要
地磁気変化計室	断熱材スペース	コンクリート鏝仕上			コンクリートあらわし																	
	前室(1)	全上			断熱材張付@50			断熱材張付@50		断熱材張付@50						木製	VP		木部	VP		
	前室(2)	全上			全上			全上		全上						全上	全上		合と	合と		
	変化計室	全上			全上			全上		全上						全上	全上		合と	合と		器械台
地磁気絶対観測室	前室	コンクリート鏝仕上			コンクリートあらわし			花崗岩	化粧合板@5	有孔石膏ボード@7	EP					木製	VP		木部	VP		
	絶対観測室	プラスチックタイル	2		全上			全上	全上	全上	全上					全上	全上		合と			器械台 配線トラフ
プロトン磁力計室	プロトン磁力計室	コンクリート鏝仕上			木製	VP		石綿セメント板	VP	木造あらわし						木製	VP		木部	VP		器械台
プロトンリレー室	前室	コンクリート鏝仕上			木製	VP		石綿セメント板	VP	木造あらわし						木製	VP		木部	VP		
	プロトンリレー室	全上			全上	VP		全上	VP	全上						全上	VP		合と	合と		制御盤受アングル
事務室兼記録計室	風除室	磁器タイル						小口平タイル		有孔石膏ボード@7	EP					アルミ製			木部	VP		
	事務室	プラスチックタイル			木製	VP		化粧合板張		全上	全上		モルタル塗	EP		アルミ製	VP		合と	合と		ガラスクリーン（ベアガラス）置棚
	記録計室	全上			全上	VP		モルタル塗一部石綿セメント板 断熱材下地	EP	全上	全上					アルミ製	VP		合と	合と		
	湯沸室	全上			モルタル塗	VP		モルタル塗	VP	石綿セメント板	VP					木製	VP		木枠部	合と		流し、ラード釜ガス
	便所	磁器質モザイクタイル						モザイクタイル張	モルタル塗 VP	全上	VP					アルミ製 木製	VP		木部	合と		
	浴室	全上						モザイクタイル張	モルタル塗 VP	スタイローテックス						アルミ製 木製	VP		合と	合と		浴槽ヨロタ
	宿直室	タタミ						エマイ壁		貼化合板						アルミ製 木製			合と	合と		
	押入	板張						合板張		合板張						木製			合と	合と		

共通事項等

別紙アスファルトモルタル塗配合比（重量%）

種別	施工場所	断熱材張付箇所に塗る箇所	施工場所	配管関係断熱箇所に塗る箇所
骨材	アスファルト	25	骨材 アスファルト	30
	6-5号砂	45	6号砂	50
	6号砂	30	6号砂	20
	比川砂	—	比川砂	—
	骨材寸法	20～25%	骨材寸法	15%以上

断熱標準施工箇所

1. コンクリートスラブ 屋根スラブ下端断熱材@は打込み
2. コンクリート壁 外壁内面及外壁面の壁は断熱材@は打込み、便所、浴室腰部分は除く

地磁気観測所(水沢)建築その他工事

仕上表

東北地方建設局営繕部

1/24

昭和44年建築部分　仕様

別紙9

外部仕上

区分	腰 仕上	腰 高	腰 色	壁 仕上	壁 塗装	壁 色	庇 上端 仕上	庇 上端 塗装	庇 上端 色	庇 はな 仕上	庇 はな 塗装	庇 はな 色	庇 下端 仕上	庇 下端 塗装	庇 下端 色	屋根 仕上	屋根 塗装	屋根 色	建具 種別	建具 塗装	建具 色	その他 仕上	その他 塗装	その他 色	
事務室兼記録計室	コンクリート打放し	500		コンクリート打放しリシン吹付			フルキャスト コンクリート			コンクリート打放しリシン吹付			コンクリート打放しリシン吹付			アスファルト防水 尼ヶ上豆砂利コンクリート打モルタル塗			アルミ製			木鉄部	VP		ボンベ上家
ポンプ室	コンクリート打放し	400		コンクリートブロック化粧積			屋根に同じ			あらわし			小屋あらわし			長尺カラー鉄板 瓦棒葺 真木なし			木製	VP		木部	VP		

共通事項等

内部仕上

建物階	室名	床 仕上	床 厚	床 色	巾木 仕上 高	巾木 塗装	巾木 色	壁 腰 仕上 塗装 色	壁 上部 塗装	壁 上部 色	天井 仕上	天井 塗装	天井 色	梁型 仕上	梁型 塗装	梁型 色	建具 種別	建具 塗装	建具 色	その他 仕上	その他 塗装	その他 色	
事務室兼記録計室	ロッカー室	フローリング張	15					センイ塗			断熱合板												
	電池室	耐酸アスファルトモルタル塗			耐酸アスファルトモルタル塗			耐酸アスファルトモルタル塗			白セメント吹付 断熱材 ⑫12						アルミ製 木製	VP		木鉄部	VP		
	暗室	プラスチックタイル張	2		モルタル塗	VP		モルタル塗	VP		石綿セメント板	VP					アルミ製 木製	VP		仝上	VP		
	車庫	コンクリートコテ仕上			仝上			仝上			白セメント吹付 断熱材 ⑫12						ステール製 木製	VP		仝上	VP		置棚
ポンプ室	ポンプ室	モルタル塗			モルタル塗			コンクリートブロック化粧積			小屋あらわし			あらわし			木製	VP		木部	VP		

別紙10

昭和50年増築部分　仕様

所長室、実験工作試験室、第2記録計室

水沢測地観測所 資料室 第2記録計室 実験工作試験室 増築工事 構造及び仕上概要

構造概要	基礎	軸部	小屋組	屋根	備考
	割ぐり石地業の上鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造		鉄筋コンクリート造	
外部仕上概要	腰	壁	建具	屋根	備考
	コンクリート打放し仕上げ	コンクリート打放しの上 セメント系リシン吹付け	アルミ製	アスファルト露出防水の上アルミコート吹付	木、鉄部 O.P 塗り

内部仕上概要　塗装は木鉄部 O.P 塗（油性ペイント）、E.P 塗（合成樹脂エマルションペイント）とする。

室名		床	巾木	壁	天井	従物
1階	資料室	ビニル床タイル張り	ビニル巾木	石こうボード E.P 塗	化粧石こうボード張り	眼鏡石、ルーフドレン、室名札、カーテンボックス 4ヶ所
	第2記録計室	ビニル床タイル張り	ビニル巾木	石こうボード E.P 塗	化粧石こうボード張り	配線ピット、室名札、カーテンボックス 1ヶ所
	実験工作試験室	ビニル床タイル張り	ビニル巾木	石こうボード E.P 塗	化粧石こうボード張り	カーテンボックス 4ヶ所 眼鏡石、ルーフドレン、換気扇 2ヶ、洗面器、室名札

渡り廊下

水沢測地観測所 渡廊下 増築工事 構造及び仕上概要

構造概要	基礎	軸部	小屋組	屋根	備考
	割ぐり石地業の上鉄筋コンクリート造	軽量鉄骨造	軽量鉄骨造	軽量鉄骨造	
外部仕上概要	腰	壁	建具	屋根	備考
	コンクリート打放し仕上げ	カラー鉄板サイデング張（石こうボード復合板）	アルミ製	カラー鉄板亜構葺（真木なし）	鉄部 O.P 塗り

内部仕上概要　塗装は木鉄部 O.P 塗（油性ペイント）、E.P 塗（合成樹脂エマルションペイント）とする。

室名		床	巾木	壁	天井	従物
1階	渡廊下	ビニル床タイル張り	ビニル巾木	石こうボード E.P 塗、一部コンクリート打放し E.P 塗	化粧石こうボード張り	

別紙１１

受注者に求める要件（仕様書 第１１条）記載書

件名 ： 水沢測地観測所のアスベスト分析調査業務

本業務従事者に必要な資格（技術者）

資格名称	氏名
建築物石綿含有建材調査者	
工作物石綿事前調査者	

※仕様書（第１１条 受注者に求める要件）
　アスベスト分析調査を実施する建築物石綿含有建材調査者講習等登録規程に規定される建築物石綿含有建材調査者及び工作物石綿事前調査者が各々在籍していること

本紙を含めた上記書類のほか、以下の書類を添付すること

・登録講習機関発行の修了証明書・修了証等の写し

・その者が在籍していることが分かる社員証等の写し

別紙１２

北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時の対応

1. 本業務の実施場所は、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表に伴い防災対応をとるべき地域に含まれる。
2. 受注者は、本業務の実施条件、実施内容を踏まえ、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表時における、後発地震による揺れの影響が大きい作業（斜面での作業や高所作業等）の作業員等の安全確保の方法について、契約後速やかに書面にて発注者に提出（様式は任意）するものとする。
3. 受注者は、北海道・三陸沖後発地震注意情報が気象庁から発表された場合には、直ちに退避するものとし、注意情報が解除されるまでの間（１週間）は当該箇所での業務を一時中止するものとする。その他の作業について、受注者は、改めて後発地震に備え業務の一時中止か継続を判断するものとし、その結果を、監督職員に連絡し、その後の対応について監督職員の指示を受けるものとする。なお、業務を継続する場合に受注者は、本業務に必要な安全対策の措置を速やかに講じ、適切に作業員等の安全確保に努めなければならない。
4. 受注者は、北海道・三陸沖後発地震注意情報を受けて措置を行った場合においては、実施した内容について監督職員に報告するものとする。
5. なお、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表があった場合は、後発地震の発生に備えるため必要に応じて、受注者はあらかじめ上記２．で発注者に提出した措置内容の記載にかかわらず、業務の一時中止について監督職員と協議できるものとする。

（記載例）

〇〇年〇〇月〇〇日

株式会社▲▲

担当：■■ ■■

北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時に備えた対応

1）北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表時における、後発地震による揺れの影響が大きい作業

（記載例）脚立を使用しての作業　など

2）1）で抽出した作業について、作業の一時中止、必要な措置を講じた上での業務継続、作業員等の安全確保の方法などの措置の内容

（記載例）作業地域が北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表に伴い防災対応をとるべき対象地域であるため、直ちに作業を中止し、作業員（〇名）とともに、あらかじめ確認しておく避難経路にて、対象地域外に避難する。現地作業員連絡先 090−××××−××××　など

3）1）で抽出した作業において、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表後に業務を継続する場合における、本業務に必要な安全対策の措置の内容及び作業員等の安全確保の方策

（記載例）気象庁からの地震に関する警報や情報をすぐに把握できる体制を整える。
発災時の対応（避難経路等）を再確認する。など

様式　1

打 合 せ 記 録 簿

<table>
<tr><td rowspan="5">受注者</td><td>発議年月日</td><td colspan="3">令和　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td>発 議 事 項</td><td colspan="3">□協議　□提出　□報告　□質問　□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>業　務　名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>受 注 者 名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>業務責任者</td><td></td><td>業務担当者</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">（内容）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発注者</td><td colspan="4">上記について　□承諾・□協議・□受理・□回答　します。
□その他（　　）
令和　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td>担当職員</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

様式　２

請負代金内訳書

令和　　年　　月　　日

支出負担行為担当官
国土地理院長

氏　名　　殿

会社所在地
会　社　名
代　表　者

１．業　務　名

２．請負代金額　　￥

３．契約年月日　　令和　　年　　月　　日

４．履 行 期 限　　令和　　年　　月　　日

業務区分	業務量	金　　額	備　考

業務責任者：氏　名　　電話番号
業務担当者：氏　名　　電話番号

様式３

業 務 計 画 書

令和　　年　　月　　日

支出負担行為担当官
国土地理院長

氏名　　殿

会社所在地
会　社　名
代　表　者

１．業　務　名

２．業 務 種 別

３．業　務　量

４．業 務 地 区

５．契約年月日　　令和　　年　　月　　日

６．業 務 期 間　自　令和　　年　　月　　日
　　至　令和　　年　　月　　日

（注）業務期間は、契約年月日から履行期限までとする。

７．履 行 期 限　　令和　　年　　月　　日

８．業 務 編 成

業　務 工程別	職　　務	氏　　名	備　考

（注）業務編成については、業務に従事する全ての者(常勤しない者を除く)を記載する。職務欄については、業務責任者、業務担当者を記載する。また、業務編成が各工程において変更になる場合は、工程別に記載する。

９．業務実施計画表

業務 工程別	工程																					備考
	月			月			月			月			月			月			月			

１０．再委託業務

会社名	業務内容	備考

１１．連絡先（緊急時を含む）

業務責任者：　　電話番号

業務担当者：　　電話番号

（注）連絡先は、所在地、所属、氏名、電話番号（携帯番号を含む）、電子メールアドレス等を記載する。

１２．その他

（１）個人情報の取扱い

（２）安全等の確保

（３）行政情報流出防止対策の強化

(4) 保険加入の義務

（注）その他については、個人情報の取扱い、安全等の確保及び行政情報流出防止対策の強化に関する事項について、「仕様書に則って適正に対応する。」と記載し、必要に応じて当該条文に基づくより具体的な対策又は当該の社内管理規程等の写しを提出する。その他、業務計画書に記載すべき必要な事項について記載する。

様式　4

令和　　年　　月　　日

担当職員
所属、官職（又は役職）、氏名　殿

会社所在地
会　社　名
代　表　者

資料貸与申請書

〇〇〇〇業務に下記資料を貸与して下さるよう申請します。

記

資　　料　　名	規　　格	単　位	数　量	期　　間	備　　考

上記の資料を受領しました。

令和　　年　　月　　日

会社所在地
会　社　名
代　表　者

業務責任者：氏　名　　電話番号
業務担当者：氏　名　　電話番号

様式５

令和　　年　　月　　日

支出負担行為担当官
　国土地理院長　　殿

会社所在地
会　社　名
代　表　者

再委託業務承認願

　令和　　年　　月　　日付けで契約締結した　　業務の一部を下記のとおり再委託業務に付したく、別添再委託会社の承諾書及び再委託業務計画書を添え承認を申請します。

記

１．再委託会社名

２．再委託会社所在地

３．再委託会社代表者氏名

４．再委託承認を申請する業務及びその範囲

５．再委託承認を申請する業務の期間
　令和　　年　　月　　日から令和　　年　　月　　日までの　　日間

６．再委託承認を申請する必要性

７．再委託承認を申請する業務の契約（予定）金額

８．再委託承認を申請する業務の契約金額の根拠

業務責任者：　　電話番号
業務担当者：　　電話番号

令和　　年　　月　　日

会　社　名
　代　表　者　　殿

　上記については、次のことを条件として承認する。

支出負担行為担当官
　国土地理院長

（注）再委託業務計画書は様式３（業務計画書）に準じ再委託会社が作成し、元請会社に提出したものを添付する。

様式６

令和　　年　　月　　日

会社所在地
会　社　名
代　表　者　　殿

会社所在地
（再委託）会　社　名
代　表　者

再委託承諾書

業務のうち、下記の業務を再委託することを承諾します。

記

１．業務種別

２．業 務 量

３．業務期間

４．そ の 他

再委託業務責任者：氏　名　　電話番号
再委託業務担当者：氏　名　　電話番号

様式７

令和　　年　　月　　日

支出負担行為担当官
国土地理院長

氏名　　殿

会社所在地
会　社　名
代　表　者

業務実施報告書

１．業　務　名

２．業務種別

３．業　務　量

４．業務地区

５．契約年月日　　令和　　年　　月　　日

６．業務期間　　自　令和　　年　　月　　日
　　至　令和　　年　　月　　日

７．履行期限　　令和　　年　　月　　日

８．納品年月日　　令和　　年　　月　　日

９．業務編成

業　務 工程別	職　　務	氏　　名	備　考

１０．業務実施状況

１１．再委託業務

会　社　名	業　務　内　容	備　　考

１２．国土地理院に対する要望事項

１３．その他

業務責任者：氏　名　　電話番号
業務担当者：氏　名　　電話番号

（注）

1．再委託業務に付した場合は、再委託業務実施報告書を本様式に準じ再委託会社に作成させ、本業務実施報告書に別紙○として添付する。

2．納品日が履行期限より早まった場合は、業務期間の至に納品年月日を記載する。

3．部分納品がある場合には全ての納品日を記載する。

様式　８

令和　　年　　月　　日

担当職員
所属、官職（又は役職）、氏名　殿

会社所在地
会　社　名
代　表　者

貸与資料返納書

○○○○業務に使用した貸与資料を下記のとおり返納します。

記

資　料　名	規　　格	単　位	数　　量	備　　考

業務責任者：氏　名　　電話番号
業務担当者：氏　名　　電話番号

上記のとおり受領しました。

会　社　名
代　表　者　　殿

令和　　年　　月　　日

担当職員